

青島神社：御成道

青島神社の主要な社殿群と元々の聖域があった元宮との間を結ぶ 60 メートルの道は、御成道と呼ばれています。元々は天皇と皇族方のみがお通りになれるものでした。1907 年の嘉仁皇太子殿下（大正天皇、1879-1926）によるご訪問のために作られました。1960 年代末まで、皇族方が来られた際しか門が開けられることはありませんでした。御成道をお歩きになった著名な皇族方には、1920 年に皇太子として訪問されたことで青島まで初の現代的な橋を渡すきっかけとなった昭和天皇の裕仁殿下（1901-1989）、1962 年に皇太子として神社で祈られた上皇の明仁殿下（1933-）、そして戦後初の日本の総理大臣であられた東久邇宮稔彦王（1887-1990）などがおいでです。このような皇族方のご足跡を追って今日訪れる人々は、門をくぐって願い事や祈りが書かれた木製の絵馬がかけられた絵馬掛けの間を歩いていきます。そこから道は檳榔の木が生えるジャングルのような森の中を続き、元宮に向かいます。